

2020+1 東京オリンピックボランティアに参加して

馬場 久子

オリンピック招致が決まってから、ボランティア募集のニュースを知り、娘の「やってみたら」という何気ない一言で応募してみました。

2018年10月のことです。

慣れないパソコンを使いながらのエントリーシートでした。

印象に残った質問の中に、スポーツ経験という項目があり、幸いにも中学生の時から50歳迄ソフトボールをしていましたのでクリア（もちろん出産等で抜けている時期はありますが）。もう一つ、日本語、英語以外の言語レベルを選択してください。とのこと。仏語、あいさつ程度と書いておきました。

2019年7月、初めてのオリエンテーションが広島市留学生会館で実施され、その後面接を受け、2020年1月Field Cast(大会ボランティア)共通研修実施。3月役割、会場のお知らせを受け取りボランティア正式に決定。

このころから徐々にコロナウイルス感染が拡がり、3月末延期が決まりました。

その後、コロナの波に一喜一憂（現在もですが）しながらの毎日。ボランティア辞退者も増え、世間ではオリンピック開催反対の中、ボランティアの研修はオンラインでどんどん進んでいました。20~30の研修を受けたように思います。開催されると信じて・・・。

家族（主人）からは、「辞退したら？」と幾度となく言われ、私の中では不安はもちろんありましたが、辞退する気にはなりませんでした。中1の孫の言葉が心強かったです。

「ばあば、やろうと思うことはやればいい」。これは、私がよく孫に言っている言葉でしたが、今回は孫から言われました。

オリンピック2週間前、無観客と発表されました。

私の役割は観客対応でしたので、これが本当の「どんでん返し」だと、啞然としました。

3年前から準備してきたものがこの開催2週間前に消えてなくなるとは・・・。世間の人にとっては当たり前だったと思います。結果、それでよかったと今は思っています。

ボランティアの役割は大きく分けて52ほどの機能がありましたが、その中の一つが私たちの役割EVS（イベントサービス）という観客対応でした。すでにユニフォーム一式を受け取り、コロナワクチン接種もいち早く済ませ、ホテル予約、仕事の都合もつけ、慣れない東京での電車の乗り換えなど下調べを何度も繰り返していたのですが。（方向音痴なので）

結局、私の会場では（海の森水上競技場）、活動日数が半分になりましたが、他の役割のサ

ポートをするという形で参加することができました。会場によっては活動が無くなったところもあったようで、仕方がないにしてもやりきれない気持ちの方がたくさんいらしたようです。

さて、やっと本題の内容に入ります。

活動は、朝 7:00~13:00 迄、とはいえ 4:30 起床、帰ってくるのは結局 15:00 ぐらい。

普段はほぼ歩かない車の生活ですが、活動中は、多い日は 1 万 5000 歩、普通で 1 万 2000~3000 歩、歩いていました。不思議なことに気が張っている毎日だったからか体力がもつものです。前述しましたように各役割のサポート役ですから、毎日違う仕事でメンバーも変わります。

まずは、会場で活動している皆さんが昼食をとるフィールドキャストブレイク & ダイニング（食堂）でのミールバウチャー（食券）の受付。（英語表示ばかり）

または、お弁当の補充係、温める電子レンジの消毒など。

最も印象に残っている役割としては、表彰式準備室のサポートでした。海の森水上競技場は、ポート、カヌーの競技が行われましたが、順位が決まると、大急ぎでそのチームの国旗を準備して、自衛官の方に渡すという役目でした。失敗が許されないのはもちろんのこと、国旗の扱い方、床に絶対つけないこと、しわをつけないことなど、実施前に注意を受け、緊張感の中、国旗を準備しました。自衛官の方々も結構緊張しながら手順を確認されているのを横目で見ながら、私はオーストラリアとニュージーランドの国旗の違いなどを確認していました。

もう一つ印象に残っていることとして、海の森クロスカントリーでの総合馬術という競技で、クロスポイントというところに立ち、競技がスムーズに実施できるよう見守るという役割です。（詳しい説明は省略します）

馬が一生懸命走っている姿を見て感動しました。思わずお馬さんに「ガンバレー！」と言いたくなるような気持ちでした。

外国から来るお馬さんもパスポートが必要であることを初めて知りました。

その他、小学生の子どもたちが観客の方々に見ていただくために育てた朝顔の水やりなど、さまざまな仕事がありました。

ボランティアとして参加できて良かったことは、オリンピック開催を陰で支える人達や内容、組織など多少なりともわかったこと。いろんな役割のボランティア、ボランティアをサポートしてくれた組織委員のリーダーの方々、メディア関係、通訳の方々、自衛官、自衛隊、日本全国から招集されている警察官の方々、セキュリティの方々の車、人の誘導。等々。そして、ボランティアの皆さんはとても明るく積極的で、どんな仕事も笑顔でされていました。一期一会ではありましたが魅力的な方ばかりでした。

帰ってからの一週間、まだ会場でボランティア活動している夢をずっと見ていました。

それだけ私にとって特別な毎日だったようです。

この歳にして、新しいことにチャレンジできたことに、ありがたい気持ちでいっぱいです。

自己満足の長文になってしまいました。すみません。

つらつらと思い出しながら書いてしまいました。

2021.8.24